

‘キャッチ’

CATCH

VOL. 81

2016.7



西東京市図書館



入部したいかも！？ こんな部活



『ウォーターボーイズ』

矢口史靖著 角川書店

みなさんはプールでの競技というと何を思い浮かべますか？今年のリオデジャネイロ五輪では、競泳、飛込み、水球、シンクロナイズドスイミングが行われます。その中で一つだけ、女子のみの競技があります。それはシンクロナイズドスイミングです。しかし、今回紹介する作品では、このシンクロに男子高校生が挑みます。

高校三年間、何の活躍もなく、たった一人の水泳部員、鈴木はひっそりと引退の時を迎えていた。だが、鈴木 of 退部で部員数ゼロとなる廃部寸前の唯野男子高校・水泳部に、若い女性教師・佐久間が顧問として就任した。美人顧問を目当てに続々と部員は集まるが、彼女の専門は男子とは無縁の競技・シンクロだった。軽い気持ちで集まった男子たちは、あっという間に逃げ出し、残ったのは逃げ損ねただけの鈴木を含むたった五人だった。そんな状況でも、やる気満々の佐久間は、文化祭でシンクロを披露しようと提案するが、練習を始めようとした瞬間に一つ目のアクシデントが……。

この作品は、2001年に公開された同タイトルの映画の小説版です。文章が苦手、文だけではどんなものか想像できないという方も、イラストが多数描かれているため、戸惑うこともなく、きっと一気にスラスラ読んでしまう事でしょう。高校最後の夏に巻き起こる数多のアクシデントや、個性豊かなキャラクターたちを楽しんでみてください。映画もおすすめです。

『こちらパーティー編集部っ！』シリーズ

深海ゆずは著 KADOKAWA

みなさんは、部活に入っていますか？運動部や文化部などいろんな部活がありますよね。サッカー部や野球部、吹奏楽部や美術部などは、どの学校にもありそうですが、めったに知られていないマイナーな部活もあります。今回はそんな珍しい部活のお話を紹介します。

白石ゆのはムダに元気いっぱいの中一女子。亡くなったお父さんの作っていた形見である雑誌『パーティー』を復活させるために幼なじみである『黒の王子』様こと黒崎旺司^{おうち}や、しおりちゃん、エンマ、トウマ先輩たちと一緒にパーティー編集部を作ります。初めは雑誌の作り方など全く分かっていなかったゆのですが、旺司達に力を貸してもらいます。ライバルの新聞部と対決したり、呪^{のろ}われたり、ケンカしたり、いろいろあったけどなんとかコンクールに出す雑誌が完成します。しかし出場することが許されず、とてもくやしい思いをします。そんな時、旺司が転校！？勝手に転校した旺司に戻ってきてもらうために、ゆのは生徒会長と直接交渉し、なんとか超名門校の七ツ星学園の編入試験^{へんにゅうしけん}を受けることに成功します。友達のおかげで無事に合格できたゆの。はたして旺司は戻ってきてくれるのか！？

この本はゆの達以外にも新聞部のメンバーやマンガ家のゆのママ、担当編集者のハルちゃんや宝井編集長などなど個性的なキャラクターがたくさんでてきます。私はパーティー編集者のしおりちゃんと新聞部のカレン様が一番好きです。しおりちゃんはミステリアス少女な所が可愛くて、カレン様はオシャレで自分の気持ちに一途^{いちず}な所がかっこいいからです。私がこの本を読み始めたきっかけは、絵が可愛かったからです。私は本を選ぶ時は表紙絵を見て決めちゃうので（笑）起家一子先生やカスカベアキラ先生、明咲^{あさき}トウル先生の絵はすごく可愛いので大好きです。そんなかんじで読み始めた「こちパ」ですが、すっかりはまっちゃいました。今のところ本編 6 冊と番外編 2 冊（『おもしろい話、集めました。』の3巻とG（ゴールド）に収録しています）があるのでぜひ読んでくださいね。

『ラブオールプレー』

小瀬木麻美著 ポプラ社

皆さんは、「バドミントン」というと、どんなイメージをもっているだろうか。公園などの広いところで、のんびりと羽根を打ち合う遊び？大抵の人はそんなようなイメージだと思う。しかし、この本に出てくるバドミントンは、そんなイメージとは全く正反対の、いわゆる「競技バドミントン」といわれる激しく、かつ過酷だが一方で、魅力的なスポーツである。

この本の主人公・水嶋亮は、中学のときの仮入部期間に、たまたま体育館で活動していたバドミントン部部長の美しい立ち姿に一目惚れをし、そのまま仮入部。バドミントンの経験は全くなかったが、コートでシャトル(羽根のこと)を打ち合う先輩たちの姿を見ながらとても魅力的なスポーツだということを感じ始め、そのまま正式に入部。のめり込むほどにその魅力は大きくなり、ますますバドミントンに熱中していく。しかし、中学最後の公式戦で、県大会4位という結果に終わってしまい、悔しい思いを残したまま引退。

最後の夏休みを迎える前日に、名門・横浜湊高校のバドミントン部監督、海老原先生からのオファーを受けて、進学を決意。そこには、文武両道イケメンエースの先輩・遊佐をはじめ、榊翔平、東山太一・陽次兄弟、松田航輝、内田輝という個性的な同級生が。そのほかのチームメイトも、他校だったら確実にレギュラーメンバーになれるような実力を持つ仲間たちと共に、横浜湊にとっては高い壁であるライバル・埼玉光学園に勝って、団体でのインターハイ優勝を目指していくことになる。

経験者が読むと、「あー、そんなことあるある」と、水嶋たちの言動に共感を覚えるかもしれない。今現在競技をしている人は、案外自分のプレーの参考書になるのかもしれない。保証はできないが……。むしろ、全くルールも何も知らないという人にこそ、ぜひ読んでいただきたい。選手がプレーしているときの熱気、シューズが体育館の床をこする音、シャトルが空を切る音、風までもが感じられるかもしれない。実際、この本の解説を書かれている方が、素人らしいがそこまで感じたみたいであるのだから。

先日は、プロ選手による不祥事が問題になったばかりではあるが、今年の夏には、リオデジャネイロ五輪が開催される。そうしたら、また違ったバドミントン競技が見えてくるはずである。

シリーズの続きにあと三冊存在する。この一冊だけでも十分主人公たちのバドミントン愛が感じられるが、シリーズを通して読むとより一層感じられるはずである。

『チョコレートコスモス』

恩田陸著 毎日新聞社

環境、才能、容姿に恵まれ、演劇界の栄光をものにしてきた若手かつベテラン役者、響子。天才子役として輝かしいデビューを飾ってから、めきめきと実力をつけ、もう二十二歳。プロという肩書も見え始めてきた頃、彼女の中ではこのまま演劇の道に一生を捧げて行っても良いものかという悩みが膨らんでくる。そんな時、演出家寺田からこんなことを聞かされた。「そういや、あの噂聞いたか？ 芹澤さんの芝居の話」芹澤泰次郎。伝説的な映画プロデューサー。その彼が二十年ぶりに芝居の監督に復帰するらしい。内容は、女二人の芝居——。響子は、そのオーディションを廻る闘いに身をのめりこませていくことになる。

一方でその頃、W 大学の演劇サークルにある一人の少女がやって来る。「ここ、入りたいんですけど」そう突然言い放ち、華奢で地味な顔立ちからは想像もできないような芝居をやったのけた彼女の名は飛鳥。彼女は大学生とは思えない類^{たぐいまり}稀なる観察眼を生かし、未経験であるはずの演劇ですぐさまその才能を開花させていく。急ピッチすぎる成長に周りも本人も戸惑いが隠せない中、飛鳥もまた芹澤のオーディションにどんどん巻き込まれていくことになる。

二人の運命は引き寄せられ、やがて最終オーディションで巡り合う。そして二人の演技が遂に重なる時、見えてくる究極の芝居の世界とは……。

舞台に立つのは自分であると、それぞれの登場人物が渦巻かせる世界観が交差し、火花が飛び散るような、とても熱い小説です。座組、サークルといったような部活より少し広い枠組みではありますが、十代前半には無い芯の強さや情熱の濃さが魅力です。

★『ウォーターボーイズ』・『ラブオールプレー』の
紹介文に登場した
リオデジャネイロ五輪は
2016年8月5日から
パラリンピックは
2016年9月7日から
はじまります♪



編集員 S が〇〇を学んだ本

『青い鳥』

重松清著 新潮社

このお話は、村内先生という中学の非常勤講師が何か問題を抱えている生徒に大切なことを教えるというストーリーです。

村内先生は、8人の生徒と出会うのですが、実は村内先生は国語の先生なのに、^{きつおん}訥音で言葉がつかえて上手く話せません。最初は、生徒たちも、村内先生のことはあまり好きではないのですが、村内先生はその子にあった適切な指導をしてくれます。

私がこの本で学んだのは思いやりです。この本を読んでから、私は相手のきもちをより大切に思うようになりました。

『ランチのアッコちゃん』

柚木麻子著 双葉社

主人公澤田三智子はある日上司の黒川敦子から一週間のランチ交換を提案されるところから物語が始まります。この本に出てくる料理は写真や挿絵がないのに、料理の姿や美味しさが伝わります。

私が、この本で学んだことは、食の素晴らしさです。この本を読むとこんなに食事をするって大切なんだなと実感しました。

ちなみに、私は一週間のランチで一番好きなものは、スムージーです。

この「ランチのアッコちゃん」は、続編もあります。食べることが好きな人への1冊です。

YA! YA! ひろば

両方とも

ひばりが丘図書館からの投稿です。

暗殺教室面白いですね。
僕も赤羽君好きです！
殺せんせー上手ですよ。

ども 琉輝や。す！ もう冬休みも終りですよ
勉強ばっかの日常が戻、てる なんて うれし
お。 今より皆様 □デラウラ×結凸と□暗秘
教室□が 帰、てますよ。！

ちなみには折原臨也さんと赤司業さん
君達が好きです。ぜひぜひ皆様もみて
くださいね。(b)

あと、こけいだ、進撃の原画、みてきちゃい
ました!! ← (本物) はありまらんが、……)

や、は。兵長 はいつみてもカッコいいですね!

そして お年玉で黒執事々字が達、てたらすみません
買、ちゃいました!! ヒャッホー!!



黒執事 フランの方がいらしたら
どうぞ コメでかいてくらせー
それでは 皆様にとって今年が
良い年になりますように
← いちおう桜さんさん ように！

7th 3

西東京市圖書館

下手 7 手¹¹ 7

泣ける区、

とて
てんしと

1枚目のコキもまたきくはない
に二枚目響きました。

$\langle \sigma \sigma \sigma \times \rangle$

「そして五人がいなくなる。」

この小説は、江戸時代から明治にかけての
書いたシリーズの1冊です。名探偵(謎)
探偵夢水青志郎が、ついでに
子供を捕まえてしまふ怪人伯
爵と対決する謎解きスリ
ー小説です。

シリーズは、全12＋外伝2
＋番外シリーズ3冊です。

はやみねさんの本、

面白いですね。この本は
読んだことないので読んで
みます！

『てんからどどん』

魚住直子作 ケーしん絵 ポプラ社

思ったことはぼんぼんしゃべる、明るく元気な高倉かりんと、人づきあいが苦手で友達がいない、勉強が得意な今井莉子。クラスメイトで同じマンションに住んでいながら、一度も話をしたことがない二人。

ある日、同じエレベーターに乗り合わせたかりんと莉子。お互いに「一度、あんな人になってみたい」と、同時にそう思った瞬間、突然、大きな雷の音！…そして、二人は中身が入れかわってしまった！

また同じようなシチュエーションで雷が落ちれば戻れるだろうからと、誰にも秘密で、かりんは莉子、莉子はかりんとして、そのまましばらく過ごすことに。

単純でたいそう前向きなかりんと、超ネガティブな莉子。入れかわった視点で見てもみれば、今まで気づかなかったことが見えてきて…。

マンガでも小説でも、誰かと中身が入れかわるお話はいろいろあるけど、こちらの頑張る二人の女の子のお話もどうぞ！

編集後記

2年目にナリます、miiです。
今年もったない文章で、
頑張って書いていこうと、
思っています（^^）
よろしく〜く（- -）>

書だけ書いて姿を見せませんが、実は
2年目。中・高学生時代を懐かし思いな
がら、「その時競んどきよかた…！」と
いうような本をこの場で皆さんに託せ
たらなと。
青春、したいね。無理に浴衣でも着て
どこか行こうかしら……。 竜胆

今年初めて編集すること
になった新です。まだ、分から
ないこともありますか
頑張ります！

新

今回はリオ五輪に
ついて、少し調べながら
書いてみましたので、
実際の競技も見たいと
思います。
テレビではありますが、
りいな

最近文豪ブーム来てますね。
私は泉鏡花の夜叉ヶ池が
お気に入りです。
夏は暑いので外に出たくない〜。

桜媛

今回、コラムと表紙絵
を担当しました。
夏は暑くてアイス
が食べたいくなります。
太らないようにしな
きゃ…

すす